



の世は、想定外の風が吹いたで済ますところだろうが、さくら友の会は、自分の責任でもないものを、引き受けて努力する。働いていると、どこからか金を貰っているのだろうと思って居る人も少なくない。間隔が狭い、植え方が悪い、などと文句を言うてくる人がある。そういう文句も引き受けながら、全くのボランティア、手弁当で世話をする。特に維持管理部会の方々、ありがとう。

「深坂さくらえ」

4月8日、恒例のさくらえが行われた。今年は、主催：下関深坂さくら友の会。共催：下関響灘ライオンズクラブ、みさかの森自然学校こだまの会、児童デイサービスきしゃぼっぱ。協賛：安岡自治会連合会。協力：深坂の森の指定管理者みさかの森自然学校共同体という形で行われ、餅つきのイベントや、出店なども行われ、一層賑やかに行われた。

桜の倒木多数

4月21日夜から22日にかけて、台風並に吹き荒れた嵐で、桜が多数倒された。24日維持管理部会に非常召集がかかり、午前9時集合、11名が出席して、倒木の復旧に当たりました。森の家の駐車場近辺だけでも10本の復旧。午後は展望台付近で同様作業を行った。維持管理部隊の皆様へ感謝である。しかし、桜の倒木はこれだけではなかった。5月1日、俵山シャクナゲ園訪問の為集まった会員達は、広場の歴代ライオンズクラブ会長の記念樹の中の一本が倒れているを目にした。よりによって故城戸哲郎氏のものである。たまたま、それを目にした夫人の目には涙が浮かぶ。今



俵山シャクナゲ園

俵山シャクナゲ園を訪れた会員から、見頃を失するぞと言う連絡があり、5月1日、急遽連絡を取れた方たちで出かけた。園主の金川さんの「好きなところ

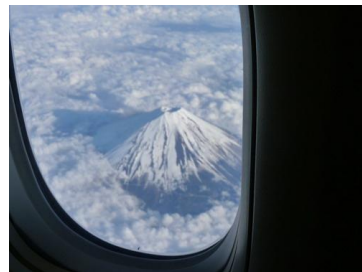
にブルーシート広げて良いですよ。」との許可を得て弁当を広げた。シャクナゲは、洋種、和種多数あり、数万本に及ぶ。少し盛りを過ぎたものも、多く見られたが、林の中や、少し日あたりの悪い、谷筋には蕾も多く見られた。



写真上、石割桜。下、弘前公園にて



同時に咲いて居た風景は、下関では考えられない事でした。最後の日に「咲いてなくても仕方ないよね。」と、納得して訪れた弘前城に沢山の桜が咲き始めていたときの喜び。残雪の岩木山をバックに桜を見た時の喜び。景色



物や風物に出会い、良い仲間と共の旅で、思い出深い研修旅行となった。

みちのくの

投稿

旅

さくら研修旅行に初めて参加させて頂きました。12年前に、仙台・中尊寺・奥入瀬を、新緑の頃訪れたことがあります。今年は残雪が多かったこと、その折には気付かなかった事等沢山あってしっかり見学させて頂きました。盛岡で、樹齢360年の石割桜を探し歩いたことも良い思い出です。中尊寺の参拝を終え、大樹のソメイヨシノと梅がは実に見事なものでした。帰りの機上から拝めた富士山の美しい姿を、はつ夏の雪頂ける富士山の残像いまでも眼うらにありと、桜を求めたこの度の旅行の思いを暖めています。有難うございました。お世話になりました。(長谷川幸恵)

桜研修旅行

4月25～27日宮城、岩手、秋田、青森の東北4県を訪れた。平泉の中尊寺、盛岡の石割桜、秋田県の角館、田沢湖、十和田湖、奥入瀬、青森県は弘前公園など。桜には数日早く、仙台以外ではほとんど蕾状態だったが、残雪多い雪景色や、カタクリ、水芭蕉、フキノトウなど東北ならではの植

次回予定(第2回定例会)

日時：7月8日 9時～

場所：深坂自然の森 森の家